

個に応じた「自立活動」を通して

共に学び合える力を育てる



八王子市立浅川中学校



生徒同士・教員同士の 学び合いを実現!

「共に学び合える力を育てる」

現在、在籍学級において困難を抱える生徒や長期欠席の生徒が増加傾向にある。その中で、特別支援教室での指導・支援、在籍学級における特別支援教育の専門性向上が不可欠になっている。浅川中学校では生徒同士・教員同士の学び合いを推進するため、3つの取組を行った。

① 「プロセスレコード」を使った事例検討会

教員と生徒が関わり合う「一場面」を取り上げ、具体的なやりとりの記録を教員同士で協議する。また、教員の思いや生徒の背景を共有し、相互理解につなげる。

② 「自立活動」の研究授業の実施

通常の学級で巡回指導教員による自立活動の授業を実施する。また、自己理解や自他を認める経験を通し、生徒同士の相互理解につなげる。

③ 相互理解に関するアンケート調査

研究授業を実施したクラスを対象に事前・事後アンケートを実施する。また、相互理解やコミュニケーションに関する意識がどのように変容したかを調査する。



八王子市立浅川中学校

浅川中学校は、都内では珍しい学校林を所有する、豊かな自然に囲まれた学校である。

生徒が自ら成長していけるよう、『もっと優しく、浅川中』を合言葉に、教職員が一体感をもって教育活動に取り組んでいる。



相互理解を深めるための取組

事例検討会の実施

教員と生徒が関わり合う特徴的な「一場面」をプロセスレコードに記録した。また、各学年で記録に基づく「事例検討会」を開催し、教員と生徒の言動を客観的に捉えたり気持ちを伝えたりすることで、背景に隠れていた教員自身の思いやお互いにどのような影響を与えていたかなど、教員同士の相互理解が深まった。

教師のためのプロセスレコード・フォーマット			
(1) エピソードタイトル () 校種 () 学年 () 日付 () 月 () 日 ()			
(2) この場面を選んだ理由			
(3) 子どもの言動 発言「」の他、行動・態度や表情なども記述する	(4) 私が感じたこと・考えたこと	(5) 私の言動 発言「」の他、行動・態度や表情なども記述する	(6) 分析・考察
(7) 私がこの場面から学んだこと			

角田 昌雄 著 (2020) 『学校臨場力を磨く事例検討の進め方—かわり合いながら奮闘する教師のために—』 (新光社) より



研究授業の実施

巡回指導教員が通常の学級で「自立活動」の授業を行った。自己理解・他者理解を深める活動を通して、自分自身や相手の良い所を知る機会となった。また、自他の考えを認め合う活動を通して折り合いをつける難しさも経験し、生徒同士の相互理解を深めることができた。

アンケート調査の実施

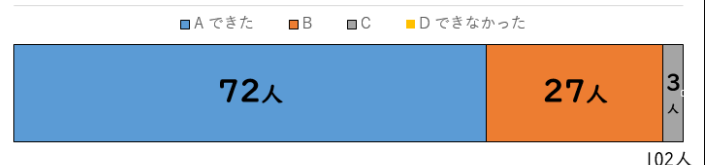
研究授業後にアンケートを実施し、授業前と後で自己理解・他者理解・コミュニケーションに関する意識がどのように変容したかを調査した。調査の結果、他者を受け入れる態勢と、自他を理解しようとする意識が向上したことがわかった。生徒の考えの変容を明確にすることで、生徒理解を深めるとともに、今後の自立活動や学級活動の指導内容の参考となった。

2学年研究授業事後アンケート結果(10月4日実施)

仲間の考えを認め合うことはできましたか？



自分の考えを仲間に伝えることはできましたか？



事例検討会（教職員）

目的：教員自身の自己理解を深める

自己のありのままの姿を捉える力を養う

- ①担任・特別支援教室教員で「プロセスレコード」を作成する。

教師のためのプロセスレコード・フォーマット

(1) エピソードタイトル () 校種 () 学年 () 日付 (月 日)			
(2) この場面を選んだ理由			
(3) 子どもの言動 発言「 」の他、行動・態度や表情なども記述する	(4) 私が感じたこと・考えたこと	(5) 私の言動 発言「 」の他、行動で示したことも記述する	(6) 分析・考察
(7) 私がこの場面から学んだこと			

角田豊編著 (2020) 『学校臨床力を磨く事例検討の進め方—かわり合いながら省察する教師のために—』(新元社) より

- ②「事例検討会」にて教員と生徒が関わり合う一場面を取り上げ、具体的なやり取りの記録を教員同士で協議する。教員の思いや生徒の背景を共有し、相互理解につなげる。

(1) エピソードタイトル (私がやるからほっといて！ or どう反応すればいいかわかんないよ…) 校種 () 学年 () 日付 (月 日)			
(2) この場面を選んだ理由 この場面を見た瞬間は当該生徒 (M) の行動に「まずいな」と感じたが、瞬発的に指導・助言することができなかった。周囲の生徒がMに気を遣っている雰囲気が感じられたし、Mの特性を理解していることもあったし、私自身がMを傷つけずに指導するにはどうしたら良いか悩んでしまったため。			
(3) 子どもの言動 発言「 」の他、行動・態度や表情なども記述する	(4) 私が感じたこと・考えたこと	(5) 私の言動 発言「 」の他、行動で示したことも記述する	(6) 分析・考察
①体育 (走り幅跳び) の授業、記録会の場面。Mはトンボ (砂場の整備) 係をしていた。Mの跳ぶ順番が近づいていたため、周囲の女子生徒数名が「Mさん、代わるよ。列に並んで大丈夫だよ。」と優しく言ったが、Mは反応せず整備を続けた。	②周囲の生徒が気を遣っているよ、早く変わってほしいな。	③「Mさん、他の子に代わってもらってもう並んでいいよ。」と声をかけた。	④整備に夢中になってしまっている様子。
⑤女子生徒がMからトンボを預かろうと手をかけたが、頑なに離さなかった。周囲の生徒は戸惑った表情をしていたが、責めることもなくMが納得して自分で辞めるまで待っていた。しばらくしてMは試技待ちの列に並びに行った。	⑥周囲の生徒が嫌な思いをしない良いな。それ以上続けたら、周りから変な奴だって思われちゃうよ。周りがMの特性を何とか理解してくれているから助かった。	⑦周囲の生徒に「助かったよ。ありがとうね。」と伝えた。その後は特に何もなかった。	⑧授業後、Mにも周囲の生徒にもフォローを入れたい。
(7) 私がこの場面から学んだこと ・その場でどの言葉を使うか選ぶか、瞬発的に判断する力が教員には必要であること。 ・両者の立場になって考え、両者の戸惑いを受け止めながら指導・助言・代弁をする必要があるということ。			

周囲が嫌な思いをしないと良いな。周りが理解してくれているから助かった。

瞬間の判断力が必要。両者の思いを受け止めながら助言しよう。

担任と特別支援教室担当教員、両方の観点から事例検討を行うことで、より生徒理解を深めることができた。

～事例検討会のようす～



生徒の特性は理解しているけれど、実際に特性が出た時の対応が難しいです。

先生が説明をしているときは、どのようなようすですか？WISCの数値はどうですか？



【成果】

- ・教員同士が生徒との関りを振り返ることで教員同士の相互理解を深めることができた。
- ・さまざまな意見から自己を客観視し、生徒との関りを冷静に判断する力が養われた。

研究授業①（第2学年）

活動：強みと弱みについて
めあて：自己理解を深めよう



個人ワーク

自分の強みと弱みについて考え、表にチェックを付けていく。

2年 組 番 名前 _____

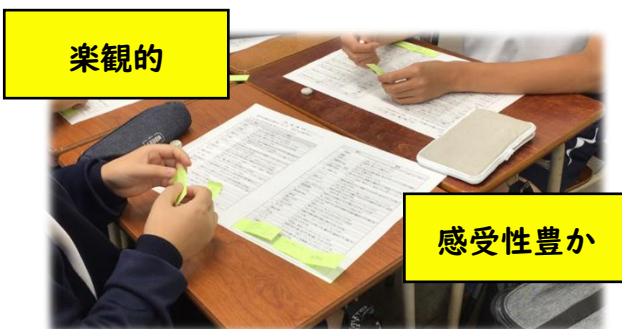
自分の強みと弱みについて めあて 自己理解を深めよう

ワーク① 自分の強みと弱みを言葉一覧にチェックを入れてみましょう

✓	弱み	意味
	人に流されやすい	本当は自分の意見が通うが、相手の意見に合わせてしまうことがある
	頑固	あまり人の意見に納得がいかないことがある
	せっかち	思い立った行動をすぐ実行しないと気が済まないことがある
	心配性	何か行う時に心配になって色々気にかけてしまうことがある
	考えすぎてしまう	必要以上に考えてしまうことがある
	理屈っぽい	何かにつけて、当面する問題を考えるうえでそれほど必要とは思われない理屈をあれこれと言ってしまっていることがある
	自分勝手	他人の迷惑などは考えず、自分に都合がいいように行動してしまうことがある
	ずうずうしい	自分の置かれた立場・状況をなどから遠慮して、しない方がいいことを気にせずしてしまうことがある
	薄情	友人が困っているのを見ても見ぬふりをしてしまうことがある。冷たい。悲しんでいる人に対し、配慮の欠いた発言をしてしまうことがある
	仕切りや投げやり	何かにつけて自分が取り仕切って物事をまとめてしまうことがある
	群れたがる	誰かと一緒に行動しないと気が済まないことがある
	他人に厳しい	他人の欠点やネガティブな部分にばかり目がいてしまいがちで、正直にその欠点を口に出して注意してしまうことがある
	空気が読めない	その場の雰囲気を読み取れない人、相手の気持ちを推し量れない人
	優柔不断	ぐずぐずしてしまって、決断力が足りない時がある
	おせっかい	相手のことに必要以上に立ち入って、余計な世話を焼くことがある
	能天気	ものごとを深く考えたり先のことを心配したりせず、軽はずみな行動をしてしまうことがある
	堅苦しい	形式を重んじて、打ち解けられないことがある
	泣き虫	ちょっとした事にもすぐ涙が出てしまうことがある
	諦めが悪い	なかなか諦められず、しつこくなってしまうことがある
	計画性がない	計画も立てず、後のことを考えないことがある
	ルーズな	態度、行動にしまりがなく、だらしないことがある
	口が軽い	「言わないで」と言われたことを、他者に言ってしまうことがある

グループワーク

① 班員の強みを言葉一覧から選び、付せんに書き出し、渡す。



② ワークシートに自分のチェックを付けたものと班員からもらった付せんに照らし合わせる。

✓	弱み	⇄	強み	✓
	人に流されやすい	⇄	他人を尊重できる	✓
✓	頑固	⇄	意志が強い	✓
	せっかち	⇄	やるのが早い	✓

【成果】

- ① 自分の新たな強みと弱みを知ることができた。
- ② 「弱みは強みにもなり、強みは弱みにもなる」ことを理解することができた。

～生徒の感想～

- ・弱みも強みに変えることができるので、全部を悲観的に考える必要はないと思った。
- ・自分に自信をもって生活していきたいと思った。

自己理解

他者理解

- ・自分では気付けないものを気付いてくれる友だちを大切にしようと思った。

- ・人それぞれの弱みと強みを認め合い、尊重し合って生きていくことが今の日本社会にはすごく大切だと思った。

相互理解

授業者へのインタビュー

自分について、じっくり考える50分間

生徒は、自分について考え、班員からもらった自分の強みが書かれた付せんで、更に考えて、自分に向き合う50分間になったのではないかなと思った。

普段、私は、10人未満の小集団での授業を担当しているので、約40名の生徒と授業を行うのはとても緊張した。

研究授業②（第2学年）

活動：ダイヤモンドランキング
めあて：自他の考えを認め合う



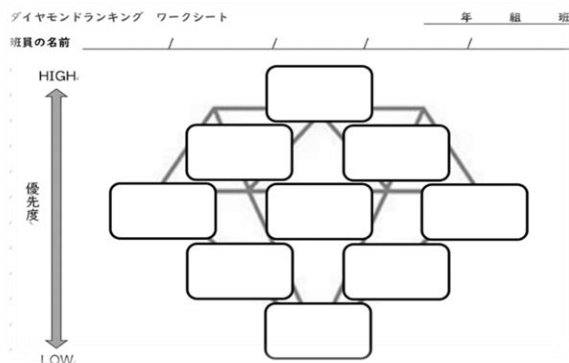
個人ワーク

① 自分のランキング作成

「仕事選びで大切にしたいこと」をテーマに優先度の高い項目からダイヤモンド型にランキングをつけていく。

① 個人ワーク

テーマ：仕事選びで大切にしたいことは？



グループワーク

① 班のランキングを作成

班員のダイヤモンドランキングを見て、班のランキングを作成する。質問したりお互いの意見を尊重したりして完成させる。



② 発表

各班で作成したランキングを他の班に発表する。



【成果】

- ① 他者の考えを受け入れようとする態度を育成することができた。
- ② 自他を理解しようとする意識が高まった。

～生徒の感想～

- ・極端な考えで自分を優先してしまうことがあった。
- ・一人ひとり考え方が違うので認め合うのが大切だと思った。

違いの気づき

意見の交換

捉え方の変容

方法、行動への発展

- ・人の意見を聞いて確かにこれも大事だと考えを深めることができた。
- ・両立が難しく悩むものも多くあった。
- ・工夫の仕方では解決できるものもあった。

授業者へのインタビュー

折り合いをつける大切さを学習

「仕事選びで大切にしたいこと」をテーマに、自他の考えを共有した。一人ひとりが自分の考えをもち、活発に取り組んでいた。それだけでなく、時には妥協して相手の意見を優先したり、折り合いをつけたりするなど他者理解の心を育むことができた。

研究成果と課題

成果

- ①自己と他者、相互の理解を深める授業を通して
 - ・生徒が以前よりも他者を受け入れることができるようになった。
 - ・生徒が他者を理解するための方法や行動を捉えることができるようになった。
 - ・生徒の自他を理解しようとする意識が高まった。
- ②プロセスレコードを使った事例検討会を行うことで
 - ・教員の生徒との関わり方を多面的に捉えることができた。
 - ・教員の生徒とのかかわり方の特徴などから、教員同士の相互理解を深めることができた。



課題

よりよい人間関係を構築するために、生徒の相互理解を深める機会や教員の事例検討会を今後も継続的に実施する必要がある。

<生徒同士>

- ・通常の学級での自立活動の授業を継続し、自他を理解し合う機会を増やす。
- ・通常の学級において、道徳科や学級活動の授業を通して、日頃から生徒同士が会話する機会を増やすなど、相互理解に関する実践的な取組を行う。

<教員同士>

- ・教員同士の価値観の共有と他者の多様な価値観を受け入れる体験を通して、生徒の姿を多面的に捉える力を身に付けたり、教員同士の相互理解を深めたりする。